
CLANNAD 悠久の昼下がり

ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CLANNAD 悠久の昼下がり

【Nコード】

N0411S

【作者名】

ユウ

【あらすじ】

CLANNADのSSです

朋也と汐のある休日の話
世界観は・・・見れば分かるはず
です
ほのぼの系になっております

ジャンルはどうなるんだろうこれ・・・

(前書き)

CLANNADSSです

かなり短いですね

オチが弱くても気にしないのです

「だんご、だんご・・・」

岡崎家の大好きな曲を口ずさみながらベランダの手すりに布団をかける。

水曜日の昼下がり、ゆったりと時間が流れる麗らかな時間。

親方がどうしても言うので今日は有給休暇を取った。

まあ何故かと言うと理由は簡単。最近、日曜以外全く休んでいなかったのである。

流石の俺もこれには吃驚してしまった。

俺すげー真面目だったんだなあ・・・

悠久の昼下がり

初春の日差しは既に暖くなり始めている。この調子なら夕方になる頃には布団がいい感じにふかふかになっているはずだ。

「おとーさん」

「どうした汐？」

ベランダにワンピース姿の汐が入ってくる。

「棗さんって人から電話だよ」

「お、きたか。悪いな汐」

芳野さんから言われていたうちの会社に入りたいという変わった若者だ。

街の方からこっちに来たがっているのだからかなりの変人に違いない。

というかゾリオン大会を開こうとする（21）コンって地点で確実に変態だ。

箆笥の上に置かれた受話器を手に取る。

「代わりました。岡崎です」

『あ、どうもすいません。 棗恭介です』

なんだ、案外普通だな・・・

何かに期待していたわけでもないが、少し残念だ。

いや、勿論いきなりいやっほーうつ！！とか叫ばれたりしても困るんだがな。

「今日はどうかしたんですか？」

『いえ、そちらに越す際に岡崎さんの隣の部屋に入ることになったので一応ご挨拶しておこうと思ひまして』

なんだ、かなり普通だな。むしろ好青年じゃないか。

「あ、そんなことですか。 いいですよ全然」

『いえまあ、職場の先輩ですしお世話になることも多いと思うので』
「そうですか。 じゃあ引越しの時は俺も手伝いますから遠慮なく使ってくださいね」

『すみません。 自分一人なんで助かります』

「まあ男なんてそんなもんですよ。 それじゃあお待ちしてますね」
『よろしく願ひします』

棗君はその後もしきりにお礼の言葉を言いながらこちらが電話を切るのを待っていた。

良くできた子だなあ。 俺のときとは大違いだ。

うーん、どうせならあの時ちゃんと話しておけばよかったかもしれない。

「おとーさん」

「ん？」

「今の人だれ？」

「んー、そうだなあ・・・お前の先輩ってとこかな？」

「先輩？」

「そう、先輩だ」

汐は未だによく分かっていない様子だ。

まあ向こうに行ったら分かるだろ。

俺の背にだんだんと迫ってきた汐の頭を撫でる。

「じゃ、お母さん見に行くか？」

「からかいに、の間違いでしょ？」

やれやれと汐が右手で頭を押さえる。

「私はもう準備出来てるんだからおとーさんが遅いんだよ」

「はいはい悪ごさんしたね」

既に出かける用意を済ませた汐が外へと出て行く。

「じゃ、行きますか」

「おー！」

スニーカーを履き、鍵穴に鍵を差込み今か今かと待ちわびている汐とともにドアに鍵をかける。

外はまだまだ暖かくなりそうだ。春物の長袖では少し暑いかもしれない。

「俺はアイスでも食おうかな？」

「私はパフェ食べるからねっ。もちろんおとーさんの奢りで」

「まじか・・・一番安いやつな」

「えっ？」

汐が自然な流れで腕を組んでくる。

十年前の俺なら恥ずかしがってたかも知れないが、もう俺はそんなに甘くない。

「一番安いのは絶対いやだからねっ」

更にぎゅっと抱きついてくる汐。

渚に怒られるかもなあ・・・

そんな風に当たり前の日常という幸せを噛み締める、春一番の吹く初春の日。

汐がこの町を離れる一ヶ月ほど前の話だ。

（後書き）

有休×悠久

・・・ゴメンナサイ
ほんとにゴメンナサイ

別に話の中に引っ張ったりしてないからいいよね!?

なんとかリトバスと話を繋がらせたいわけですよハイ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0411s/>

CLANNAD 悠久の昼下がり

2011年10月6日16時32分発行